

Windows共有フォルダを使用してスクリプト経由でSecure Client Umbrellaをインストールする方法

内容

[はじめに](#)

[背景説明](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[設定手順](#)

[検証](#)

[トラブルシューティング](#)

はじめに

このドキュメントでは、ソフトウェアをプッシュするための自動化ツール（SCCM、Intune、GPOなど）がない場合に、Secure Client Umbrellaモジュールを展開する方法について説明します。

背景説明

このドキュメントでは、Windows共有フォルダを使用し、SC Umbrellaをインストールする必要のあるPCから1つのスクリプトを実行することで、導入を簡素化します。

さらに、特定の問題をTシューティングする必要がある場合に役立つDARTモジュールもインストールされます。

この設定の一部として、VPN UIを非表示にします。そのため、ユーザにはUmbrellaモジュールだけが表示され、展開は簡単になります。また、Umbrellaモジュールで使用されるOrgInfo.jsonファイルをインポートし、UmbrellaルートCA証明書をマシンにインポートします。このためには、.batスクリプトを実行します。



注:SC Umbrellaモジュールをインストールするには、すべてのモジュールがコアまたはVPNに依存しているため、SC VPNコアもインストールする必要があります。

次の設定例では、VPN機能にVPN UIまたはVPN Clientプロファイルなどのその他の.xmlプロファイルが不要であることを前提としています。

前提条件

要件

次の項目に関する知識があることが推奨されます。

- [Umbrellaダッシュボード](#)へのアクセス
- インストールするPCの管理者権限
- SC UmbrellaをインストールするPCからWindows共有フォルダにアクセスする
- 可能な場合は、ユーザに対する管理者アクセスをC:\ProgramData\Cisco\Ciscoセキュアクライアントパスに制限し、プロファイルを削除または編集できないようにします

- 。また、PC上のサービスの開始/停止/再開に対するアクセスを制限することも検討できます

使用するコンポーネント

このドキュメントの内容は、特定のソフトウェアやハードウェアのバージョンに限定されるものではありません。

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されました。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな（デフォルト）設定で作業を開始しています。本稼働中のネットワークでは、各コマンドによって起こる可能性がある影響を十分確認してください。

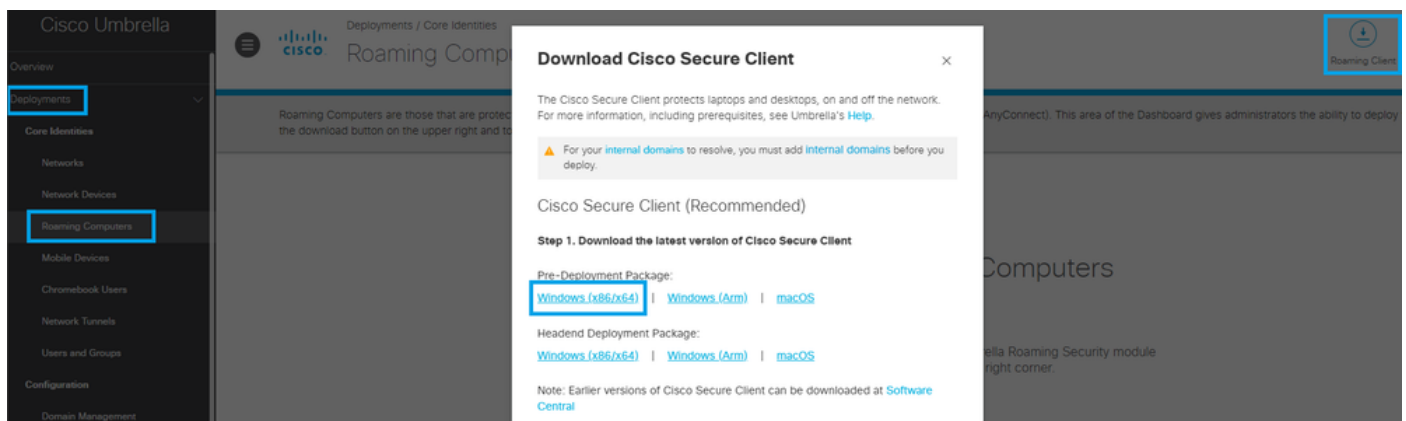
設定手順

ステップ 1：まず、ダッシュボードからセキュアクライアントソフトウェアをダウンロードします。

このファイルは、ダッシュボードにログインすると、Deployments > Roaming Computers > Roaming Client > Download Cisco Secure Clientの下に表示されます。

ダウンロードしたら、ファイルを解凍し、ファイルをコピーします（ステップ4で使用）。

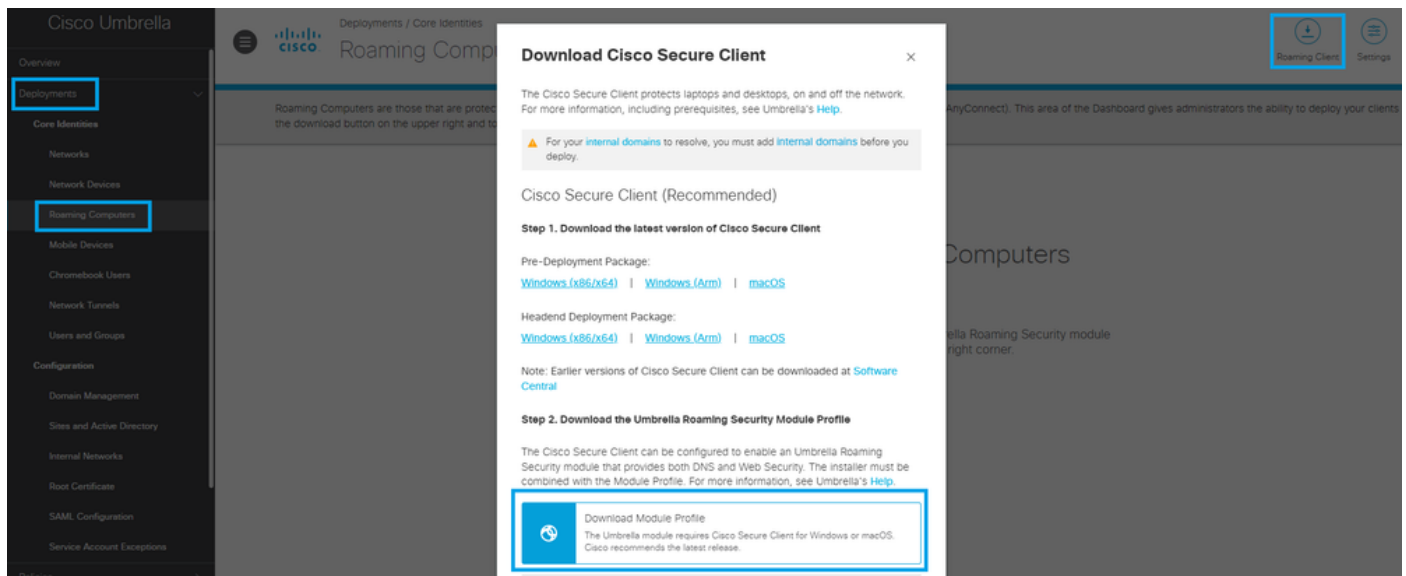
- cisco-secure-client-win-5.0.05040-core-vpn-predeploy-k9.msi
- cisco-secure-client-win-5.0.05040-dart-predeploy-k9.msi
- cisco-secure-client-win-5.0.05040-umbrella-predeploy-k9.msi



20144836311828

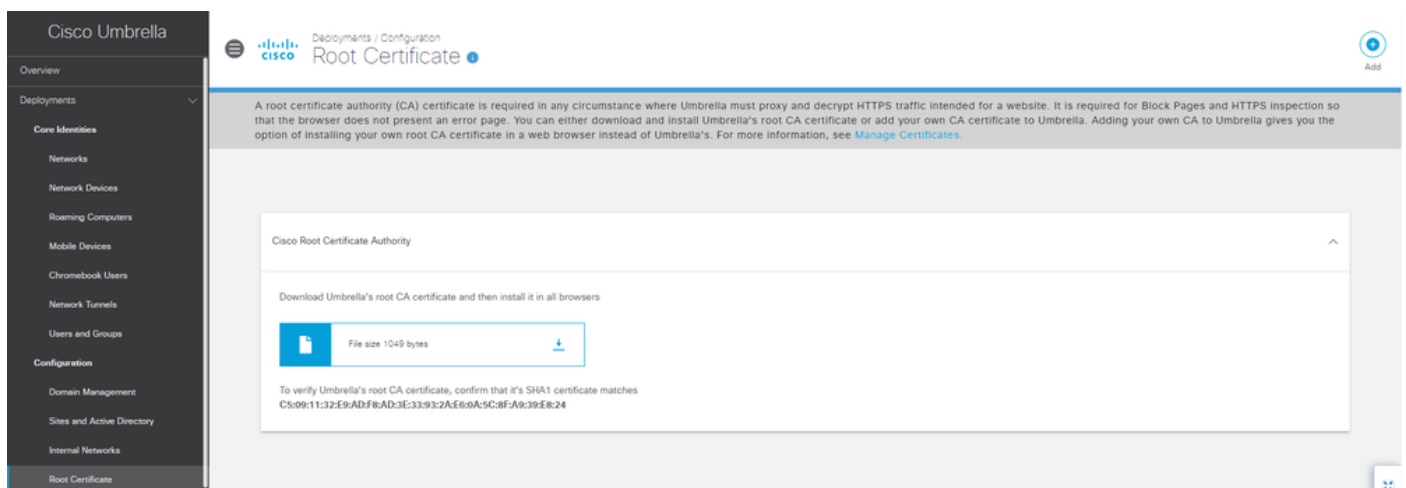
ステップ 2：ダッシュボードからOrgInfo.jsonファイルをダウンロードします。

このファイルは、ダッシュボードにログインすると、Deployments > Roaming Computers > Roaming Client > Download Module Profileの下に表示されます。



20145027908116

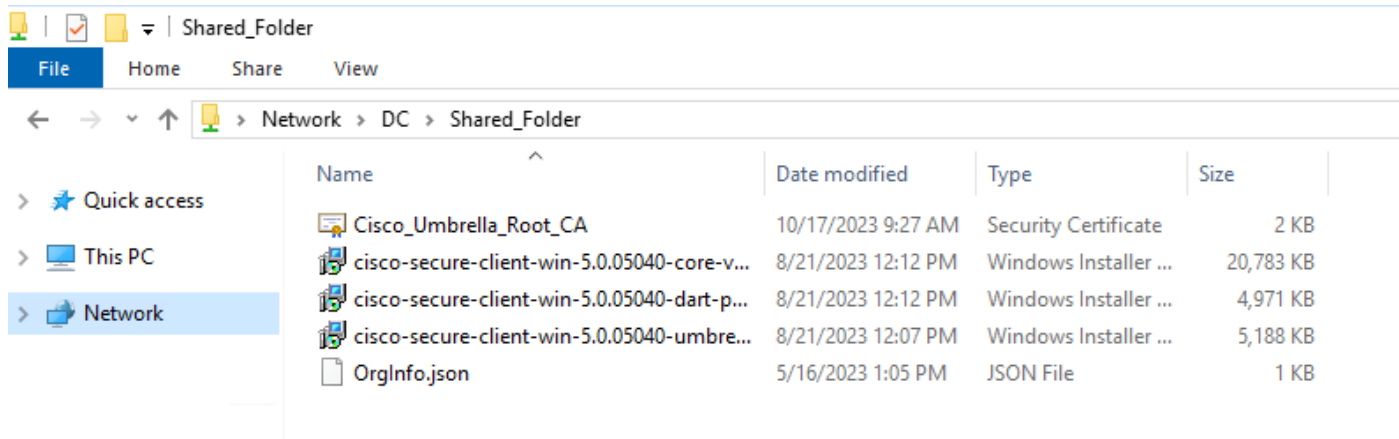
ステップ3: (オプション) インストールスクリプトの一部としてUmbrellaルートCA証明書をインストールするには、UmbrellaダッシュボードのDeployments > Root Certificate > Cisco Root Certificate Authorityの下からルートCAをダウンロードし、downloadアイコンをクリックします。



20144836332692

ステップ 4 : すべてのPCがアクセスできる共有フォルダにすべてのファイルを配置します。この場合に必要なファイルは次のとおりです。

- Cisco_Umbrella_Root_CA.cer (推奨)
- Orginfo.json
- cisco-secure-client-win-5.0.05040-core-vpn-predeploy-k9.msi
- cisco-secure-client-win-5.0.05040-dart-predeploy-k9.msi
- cisco-secure-client-win-5.0.05040-umbrella-predeploy-k9.msi



20144820279700

ステップ 5：このドキュメントで説明されているオプションのいずれかを使用して、カスタム .bat スクリプトを作成します。ラボでは、「PRE_DEPLOY_DISABLE_VPN=1」オプションを使用できます。

また、「ARPSYSTEMCOMPONENT=1」を使用して、Secure Client ソフトウェアを Add/Remove Programs List から隠したり、LOCKDOWN=1 を使用してサービスをロックダウンすることもできます。

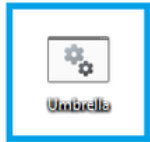
VPN UI を非表示にしない場合は、次のスクリプトの最初の行の最後にある「PRE_DEPLOY_DISABLE_VPN=1」を無視します。

```
msiexec /package "\\DC\Shared_Folder\cisco-secure-client-win-5.0.05040-core-vpn-predeploy-k9.msi" /norestart  
msiexec /package "\\DC\Shared_Folder\cisco-secure-client-win-5.0.05040-umbrella-predeploy-k9.msi" /norestart  
msiexec /package "\\DC\Shared_Folder\cisco-secure-client-win-5.0.05040-dart-predeploy-k9.msi" /norestart  
copy "\\DC\Shared_Folder\OrgInfo.json" "C:\ProgramData\Cisco\Cisco Secure Client\Umbrella\OrgInfo.json"  
certutil -enterprise -f -v -AddStore "Root" "\\DC\Shared_Folder\Cisco_Umbrella_Root_CA.cer"
```



注: 「\\DC\Shared_Folder\」をローカル共有フォルダパスに置き換えてください。

手順 6 : Secure Client UmbrellaモジュールをインストールするPCに.batスクリプトを導入/コピーします。



CISCO SECURE



20144820283796

手順 7：クライアントマシンからスクリプトの実行を続行します。可能であれば、PowerShellを管理者として使用します。



CISCO

```
Administrator: Windows PowerShell
PS C:\Users\Josue\Desktop> .\Umbrella.bat

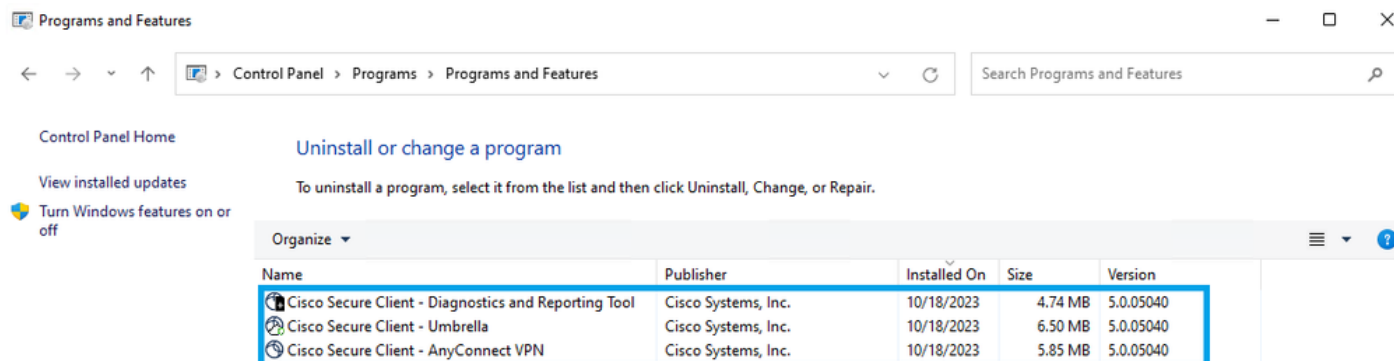
C:\Users\Josue\Desktop>msiexec /package "\\DC\Shared_Folder\cisco-secure-client-win-5.0.05040-core-vpn-predeploy-k9.msi" /norestart /quiet PRE_DEPLOY_DISABLE_VPN=1
C:\Users\Josue\Desktop>msiexec /package "\\DC\Shared_Folder\cisco-secure-client-win-5.0.05040-umbrella-predeploy-k9.msi" /norestart /quiet
C:\Users\Josue\Desktop>msiexec /package "\\DC\Shared_Folder\cisco-secure-client-win-5.0.05040-dart-predeploy-k9.msi" /norestart /quiet
C:\Users\Josue\Desktop>copy "\\DC\Shared_Folder\OrgInfo.json" "C:\ProgramData\Cisco\Cisco Secure Client\Umbrella\OrgInfo.json"
1 file(s) copied.
C:\Users\Josue\Desktop>certutil -enterprise -f -v -AddStore "Root" "\\DC\Shared_Folder\Cisco_Umbrella_Root_CA.cer"
Root "Trusted Root Certification Authorities"
Signature matches Public Key
Certificate "Cisco Umbrella Root CA" added to store.
CertUtil: -addstore command completed successfully.
PS C:\Users\Josue\Desktop>
```

20144836348948

ステップ 8 : UmbrellaをインストールするPCで手順6と7を繰り返します。

検証

ソフトウェアがPCにインストールされていることを確認します。



20144836357012

Umbrellaモジュールだけがユーザに表示されることを確認します。VPNモジュールも表示する場合は (VPN目的で使用するために、ステップ5のスクリプトの最初の行の最後にある「PRE_DEPLOY_DISABLE_VPN=1」を無視します)。



20144820307220

PCがダッシュボードに正しく登録されていることを確認します。

Cisco Umbrella

Overview

Deployments

Core Identities

Networks

Network Devices

Roaming Computers

Mobile Devices

Chromebook Users

Network Tunnels

Users and Groups

Configuration

Deployments / Core Identities

Roaming Computers

Roaming Client

Settings

Roaming Computers are those that are protected by either the Umbrella Roaming Client, or Cisco Secure Client Umbrella module (formerly AnyConnect). This area of the Dashboard gives administrators the ability to deploy your client to the download button on the upper right and to manage your Roaming Computers below.

Search

Advanced

6 Total

☐	Identity Name	Status	Tags	SWG Override Setting	Last Sync
☐	PC-1 (AD)	Protected & Encrypted at the DNS Layer DNS Layer Encryption: enabled		Enabled	9 minutes ago

20144921697684

トラブルシューティング

現在、この設定に関する特定のトラブルシューティング情報はありません。

翻訳について

シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。